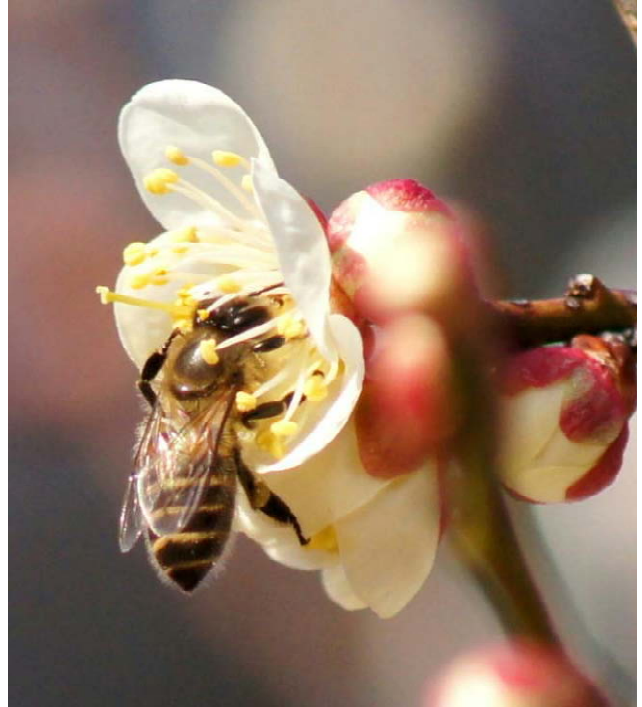
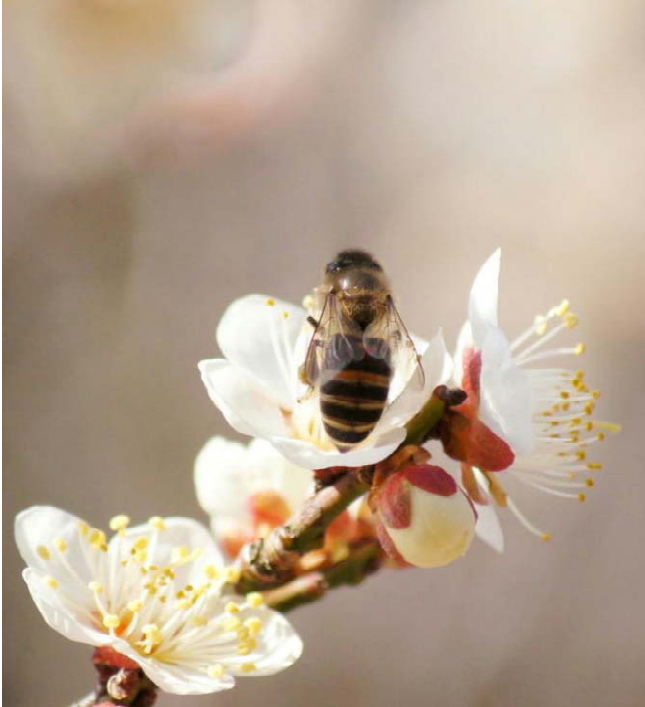


牛久：学校周辺に見る自然

第35号 牛久自然観察の森

2014年3月23日発行

＜ 春が来た！ ～ウメの花が咲いています＞



顔をつっこんで、ウメの花みつを吸うニホンミツバチ。他のハナバチ類はまだ、ほとんど活動しない。

寒さもやわらいできた2月末、午後の勤務がなかったので牛久自然観察の森によりました。ようやく咲き始めたウメに、ニホンミツバチがみつを吸いに来ていました。みつのでる場所は雄しべや雌しべのつけ根、花の奥にありますので、ハチも花の中に顔をつっこんで、花粉まみれになりながら吸っていました。よく見ると、セイヨウミツバチなど他のハナバチのなかまはいません。寒さに弱いので、まだ活動できないようです。(現在は見ごろです)



こちらは・・・、別のハチがいるじゃないかって？ たしかにハチのように、腹に黄色と黒のしまもようがありますね。でも、よく見て下さい。頭のわりにやけに目が大きくありませんか？ さらにくわしく見ると、はねが2枚しかなく、触角(しよっかく)も短い。腰もあまりくびれていません。まるでハエみたいって？ そう、じつはこれはハエに近いなかまで**ホソヒラタアブ**。成虫はみつや花粉を食べるので、このなかまをハナアブ類とよんでいます。ハチはもっと目が小さく、はねは4枚。触角(しよっかく)が長めで腰のくびれがすごいです。

ウメの花粉を食べる、ホソヒラタアブ。
ハチではなく、ハエに近いなかま。



こちらにもハナアブのなかま
で、**ナミハナアブ**のメス。
パッと見るとさらにハチに似
て見えますが、やはり目が大
きく、はねは2枚で触^{しよっかく}角も
短いですね。よく似たシマハ
ナアブのメスとは、こちらのは
ねのまん中が茶色いことで
区別できます。また、オスと
はこちらの目と目の間がはな
れていることで区別できま
す。
**ウメの花みつをなめる、
ナミハナアブ。**

ハエのなかまにも、成虫が花のみつや花粉を食べるものがあります。よく知られているのは、写真の**ツマグロキンバエ**。前ばねの先が黒っぽいのと、みつをなめるときなど口先が長くのびるのが特徴ですが、よく見ると目のもようもとてもおもしろいですよ。 【理科支援員：宮内】



ウメの花粉を食べる、ツマグロキンバエ(左上)とその拡大(右上)。こちらには、ナミハナアブも来ていた(下)。